

黒田雅史社長 新年のご挨拶 (ふえろ～)



新年明けましておめでとうございます。

皆様に於かれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃よりイチネングループ各社にご支援賜りまして感謝申し上げます。

世界経済は、ユーロ圏の財政問題による景気低迷、アジアの景気減速、アメリカの金融緩和縮小問題・財政問題等、世界景気は不安定要素を抱えており、楽観視できません。

又、一昨年来、中国・韓国と領土問題等を発端とする憂慮すべき関係の悪化が続き、経済に悪影響が出ており改善の兆しがない状態が続いております。

国内では、デフレ脱却、経済回復を目指したアベノミクス三本の矢の効果により、円高が改善され、株価の上昇、消費及び消費マインドの回復により国内景気は上向いております。しかし、原子力発電に対する対応が明確に示されず、火力発電用燃料の天然ガス・原油の調達も有り、貿易赤字の常態化に加え、本年4月より消費税率が8%へと引上げが決まり、景気に悪影響があるものと考えられます。この様な経済環境の下、イチネングループに昨年5月、タスコジャパン㈱が新たに仲間入りし、第2四半期より業績に貢献しています。

第3四半期の業績数値は集計中ではありますが、全てのセグメントで増収となり、売上高・営業利益について過去最高数値を更新している見込みです。配当につきましては10月28日に通期で1株当たり24円へと増配を発表しています。ホールディングス体制の下、各事業会社の努力により業績は右肩上がりです。

本年も「環境・安全・安心」に加えて「スピード」を掲げ、2020年には売上高1,000億円超、営業利益100億円超を実現させるべく、一層の規模拡大、収益増大を目指し、以下の経営方針で運営して参ります。

1. 各セグメント・事業会社が連結営業利益の10%以上を稼ぐ事を目指す。
2. コストダウンを図る。

徹底した原価及び販売管理費の見直しを行い、業務効率の改善を図り、管理運営を行う。

グループ間でのシナジーを追求・発揮させる。間接部門の統合、資産の有効活用、商圏の融通・拡大等を図り、間接部門は全社に対して協力・努力を惜しまない。

不採算取引の思い切った改善を行い、又、採算向上に継続して注力する。

貸し倒れリスクを最小限にする。

3. グループの財務体質の強化を図る。

中期的に自己資本250億円超、営業利益65億円超、自己資本比率25%超を達成する。



以上の方針で2014年3月期の計画を早期に達成することを目指し、来期に向けての準備を行い、鋭意努力、業務推進中です。

セグメント別の課題は、大黒柱の自動車総合サービス事業は、引き続き規模拡大の為、契約件数、契約台数、契約残高、販売数量の獲得と、適正な利潤を確保する各施策を継続して実施する必要が有ります。

中核事業のケミカル事業は、国内での販売件数・数量の拡大に加え、海外での顧客獲得・製造を拡大する事を早急に検討し実行に移します。製品・商品のリニューアル、新規商品の開発・販売はスピード感をもって着実に実施します。

パーキング事業は、管理車室数・管理箇所数の拡大と駐車場の個別採算を向上させ、業界での地位向上を図ります。

車体修理管理サービス事業は、存在感を出す為、個人顧客の獲得にも注力し、契約台数を増加させ、受注台数の増大・確保により連結業績に貢献できる事を目指します。

中古車販売事業は、仕入方法・ルートに加え販売方法・ルートを多様化させ販売台数を確保し利益の倍増を目指します。

機械工具販売事業は、今期よりタスコジャパン(株)がグループ入りしましたが、既存の仕入先、販売先との取引関係をより強固なものとし、新規顧客の開拓を積極的に行い、又、商品開発にも注力し売上拡大を図ります。

合成樹脂事業は新規顧客の開拓が喫緊の課題で、加えて品質向上による更なる差別化を図り、早期に100億円超の売上高を目指します。

新しくグループ入りした事業会社は、早期に上場企業グループの一員となり各社との連携を図り、関係を利用し、業績の向上に寄与し、存在感を出します。

新規事業の開発は、常に経営資源を投入し、グループの柱に育てる所存です。

管理間接部門は、HDと各事業会社の経営を支え、体制・環境の整備を図りつつ、牽制する立場を維持し、上場会社グループとしての企業価値向上を追求します。

企業経営では業績が重要な指標ですが、全ては人材であり、積極的に社内外の研修・勉強会等に参加し、各人のスキルアップを図り、中・長期的に組織・人材が維持・確保できる様、各事業会社の役職員は心掛ける必要が有ります。

また、積極的な企業活動を継続させる為に各事業会社は、熾烈な競争に勝ち、規模拡大、収益増大を実現し、適正な利益を確保することにより、ステークホルダーとより良好な関係を保ちグループの存在意義を示して参ります。

経済の先行きが不透明な中、グループ各社・部門・役職員は、日常業務の遂行により、計画を達成し、経営方針を意識し利益創出にも注力しなければなりません。

最後にイチネングループは、まだまだ、発展途上ではありますが、関係各位の皆様には倍旧のご支援、絶大なるご理解・ご協力をお願いし、本年もグループ役職員全社一丸となり、企業の社会的責任を果たし、厳しい経済環境を一步ずつ乗り越え、社業の更なる発展に邁進して参りますこととお誓い申し上げご挨拶と致します。